平成13年（2001年）3月1日

The Japan Society of Waste Management Experts

廃棄物学会ニュース

No.61

廃棄物学会

会員アンケートを実施して

廃棄物学会総務委員長　藤本　忠生

この度、廃棄物学会員全員に対してアンケートを実施いたしました。目的は、アンケートにも記載しておりましたが、学会運営の現状についての満足度合をお尋ねし、併せて今後の学会運営についての希望をお聞きし、かつ、改善策を提案していただくと言うことでした。年末に、廃棄物学会ニュースと一緒に送り、正月休みに回答を書いていただこうとしました。

その結果、送付総数3,725通（正会員3,407通、公益・賛助会員318通）に対して、回答数は336通で、回答率は9.0%でした。この回答率をどのように評価すべきかは、『思っていた以上に多くの回答があった』との見方もある一方、『未回答が91%もあり、会員の意見とするには少し物足りないのではないか』との意見もあろうかとは思います。私共担当させていただいた者といたしましては、多く集まった方だと考えております。

もう少し数字を見ますと、廃棄物学会全体についての意見は、アンケートの最終ページに総数193件書かれており、6つの委員会それぞれについての意見は、延べ総数1,500項目にもなります。何れも、貴重な意見が数多くあると思います。現在、総務委員会の皆さんの手を煩わし、大変な作業ですが、整理を急いでおります。その内容は、出来るだけ早く、学会の印刷物を通して、会員の皆さんにお知らせいたしたいと考えております。

これら回答は、今後、各種機関でよく熟読玩味し、分析し、個人会員、団体会員を問わず、廃棄物学会を構成する会員の皆様のために、より役立つ廃棄物学会を目指すにはどうするべきかをまとめます。その結果は、理事会に報告され審議されます。学会としての考え方としてまとまったものは、5月に開催される総会で、会長方針のなかにも多くが盛り込まれることになりましょう。

一方、現在、各委員会の委員長の下で、来年度の活動内容の計画立案と、予算の編成作業が執り行われております。アンケートの回答コピーを各委員長に回付し、すぐ取り込むことができそうな内容については、来年度計画に盛り込めるかどうかを検討しております。

以上のような次第で、整理分析に少し時間がかかりますので、今回結果の詳細のご報告は出来ませんが、アンケートの回答全体に目を通した感想を申し上げますと次のようなことになろうかと思います。

1)アンケートの回答スペースを小さく割っていたので、皆さんに十分な意見を書いていただくスペースが少なかったきらいがある。

2)廃棄物学会は、多くの職業や異なる専門の方々で構成されているので、希望される内容が多義にわたり、ひとつにまとめる難しさが今更ながら分かった。

3)このことは、学会誌の編集内容や希望する行事を取ってみても、色々な意見があると言うことである。どの辺に活動の中心を置くべきか、今後の大きな検討課題であると言える。

4)廃棄物学会員は、現状の活動内容の「必要度」と「満足度」をどのように考えているかについても、大いに参考になりそうである。廃棄物学会も設立後10年を過ぎ、そろそろ『色々な面でマンネリ化していないか』との危惧の声もあるやに聞くが、これらについて、学会員の意向の概要をつかむ大切な参考データが得られたと考える。

5)事務局の方々は大変多忙を極めている、また、委員は皆本来の仕事を持ちながら、手弁当での学会の運営に当たっている等、お褒めの言葉も多くいただいた。心強い限りである。

6)資金面で大いにご協力いただいている団体会員から、「団体会員が本当に役に立つ活動は何か」についてのアイデアをもう少し多くいただきたかった感じはする。

以上、簡単ですがアンケートのお礼といたします。

□■□■　年会委員会　□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

第12回廃棄物学会研究発表会開催要領、並びに発表論文募集のお知らせ

第 12 回研究発表会の概要

期　　日：平成13年10月31日（水）～11月2日（金）の3日間
開催場所：神奈川県横浜市中区山下町3-1　　神奈川県民ホールほか
内容予定：1）シンポジウム／特別講演　2）研究発表　3）ポスターセッション　4）懇親会　など

発表論文の募集要領

①開催趣旨：あらゆる分野の廃棄物に関心のある人々に研究発表の場を提供する。
②内　　容：廃棄物に係わるあらゆる調査研究の成果。
　○廃棄物とは、法律にいう廃棄物のみに限らず、再生利用、再資源化の対象となるもの、未来や過去において廃棄物であるものなど、いわば潜在的廃棄物も含める。
　○原則として未発表の調査研究であること。ただし、既発表のものであっても、何らかの再編成がされていれば受け付ける。
　○経験や現状を報告するものも受け付ける。目的、内容、結論については、明確に記述すること。
　○製品の宣伝等、学会の研究発表にふさわしくないものは受け付けない。
　○相互に関連する 2～3 編の研究発表については、連続口頭発表の要望には応じられない。ひとつにまとめるか、個々に完結したものとすること。
　○不鮮明な図表等については、修正を求めることがある。
　○最終的な発表の採否は年会委員会が行う。研究発表の採否と発表区分については、7 月下旬までに通知する。
③応募資格：平成 13 年 5 月末現在で本年までの年会費を完納している本会正会員・学生会員に限る。
　（共同発表の場合は 1 名以上が上記条件を満たす正会員であること）
④研究発表区分：すべての発表論文は「講演論文集」に掲載する。
　(1)**口頭発表**（登壇は一人 1 件に限る）：発表 10 分、質疑応答 5 分の予定。優秀プレゼンテーション賞の表彰を行う（対象は正会員・学生会員）。なお、口頭発表希望者が多数の時はポスター発表への変更を依頼することがある。
　(2)**ポスター発表**：発表内容をポスターにして掲示し、指定の時間帯に発表討論を行う。詳しい実施要領は採択後送付する。優秀ポスター賞の表彰を行っているので奮って応募願いたい。
⑤申込方法：本ニュースに同封の「執筆要領」にしたがって発表論文原稿を作成し、「発表申込書」と論文原稿を 1 セットとし、オリジナルを 1 セット、コピーを 4 セット（コピーはそれぞれ申込書が先頭になるようにして両面コピーし、左上をホチキスでとめる。）の合計 5 セットを下記⑧に送付する。なお、提出書類に不足があると受け付けることができない場合があるので、チェックシートで十分に確認の上送付すること。
⑥送付期限：平成 13 年 6 月 11 日(月) **当日消印有効**（宅配便の場合は当日必着）。
　原稿の持参は受け付けない。
　・・・ いかなる理由があっても期限を過ぎて提出された論文は受け付けない（期限を過ぎて到着した論文はすぐに返却する）。
⑦原稿差し替え：提出後の差し替えは一切不可とする。
⑧送 付 先：〒108-0014　東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5 階　廃棄物学会事務局 論文受付係
　○研究発表申込書及び発表論文原稿の到着確認を希望する場合は、表に返送先、裏面に送付した発表論文原稿の題目を記入したハガキ（ただし、下辺から 8 ㎝の範囲は空白にしておくこと）を同封する。電話での確認は一切行わない。

※ 上記募集要領とともに同封の執筆要領を熟読下さい。
※ 予告：講演論文集の事前送付を試行することになりました（原稿提出締切が早くなったのはこのためです）。参加申込の際（9 月）にお申込み下さい。

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■　国際委員会　□■□■

左記概要の第12回研究発表会において、日韓廃棄物学会協力協定に基づく交流事業の一つとして、国際セッションが実施されます。このセッションは、海外の研究者や在日外国人研究者に研究成果を発表する場を提供する意味も含め、発表及び質疑応答を英語で行います。例年20件程度の論文が寄せられ、分野別に活発なセッションが行われています。

本年は、下記要領で発表論文を募集いたしますので、積極的な参加をお待ちしております。

なお、英文の募集要領が必要な場合は、廃棄物学会事務局に請求して下さい。

国際セッション発表論文の募集要領

①内　　容：廃棄物に係わるあらゆる調査研究の成果。ただし、日本語セッションで発表する論文の英訳発表は不可。

②応募資格：平成13年5月末現在で本年までの年会費を完納している本会正会員・学生会員（共同発表の場合は1名以上が前記条件を満たす正会員であること）。
韓国廃棄物学会会員及び国際セッションのみに参加する外国人。

③研究発表方法：**口頭発表のみ。**発表論文を「講演論文集」に掲載するとともに、発表10分、質疑応答5分の予定。登壇は一人につき1件に限る。ただし、日本語セッションの口頭発表登壇者であっても、国際セッションでも登壇できる。

④論文形式：(1)任意のA4版白紙片面に、左右に22㎜、上下に28㎜の余白をそれぞれとり、その枠内に42行程度のピッチで英文のみで記入する。この原稿をそのままオフセット印刷するので、鮮明なオリジナル原稿を送ること。
(2)原稿の長さは3ページ以内。
(3)第1ページは、1行目に題目を用紙左端より45㎜以上あけて書き出し、1行あけて発表者名及び勤務先名（登壇者には氏名の前に○印を付す）を右側に寄せて書き、1行あけて本文を書き出す。第2ページ以降は1行目から書く。原稿へ記載する発表者の数は自由。ただし、プログラムには発表申込書に記載された3名のみを記載する。
(4)本文等の文字は原則としてTimes New Romanの12ポイント（黒字のみ）とし、題目には本文よりも大きな文字を用いる。
(5)図表や写真は、原稿の適当な位置に直接記入するか、上端のみを貼付する（ペーパーボンド、両面粘着テープ等が適当、セロハンテープは不可）。
(6)第1ページの末尾に左端から右端まで区切り線を入れ、代表連絡者氏名、連絡先、電話番号、E-Mail等を記入する。

⑤申込方法：上記論文形式にしたがって発表論文原稿を作成し、「発表申込書」（第12回廃棄物学会研究発表会発表申込書に英文で記入して下さい。発表区分については口頭発表のみです）と論文原稿を1セットとし、オリジナルを1セット、コピーを4セット（コピーはそれぞれ申込書が先頭になるようにして両面コピーし、左上をホチキスでとめる。）の合計5セットを下記⑨に送付する。なお、提出書類に不足があると受け付けることができない場合があるので、チェックシートで十分に確認の上送付すること。

⑥送付期限：2001年6月11日(月) **当日消印有効**（宅配便の場合は当日必着）。
原稿の持参は受け付けない。

⑦採 否 等：国際委員会が年会委員会と連携して発表論文の採否と区分をし、その結果を8月中旬までに通知する。なお、不鮮明な図表等については、修正を求めることがある。

⑧そ の 他：以上に定めのない事項については、左記の「第12回廃棄物学会研究発表会開催要領並びに発表論文募集のお知らせ」及び本ニュースに同封の「廃棄物学会研究発表会論文執筆要領」に定めるところに準ずる。

⑨送 付 先：〒108-0014　東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5階　廃棄物学会事務局 国際Ｓ論文受付係

○研究発表申込書及び発表論文原稿の到着確認を希望する場合は、表に返送先、裏面に送付した発表論文原稿の題目を記入したハガキ（ただし、下辺から8㎝の範囲は空白にしておくこと）を同封する。電話での確認は一切行わない。

2001年度韓国廃棄物学会春季学術研究発表会英語セッション発表論文の募集について

2001年度韓国廃棄物学会主催春季学術研究発表会英語セッション（日韓廃棄物学会交流事業の一環）が、来る5月中旬開催される予定です。毎年日本から参加し、研究論文を発表しています。今回も多くの会員の参加を期待いたします。

発表論文は、国際セッションの執筆要領に準じ、4月16日（月）までに学会事務局までお送り下さい（詳細は、学会事務局までお問合せ下さい）。

廃棄物学会1年の歩み

平成12年(2000年)は、Y2Kいわゆる2000年問題で幕開けした。2000年問題とは、いうまでもなく対応が不十分なコンピュータが2桁表示された「00」を1900年と誤解してしまう問題である。幸いにも、ライフライン等には大きな事故は無く「00」年を迎えることができた。廃棄物の関係では1900年は「汚物掃除法」制定の年であり、100年を巡って新たな「00」年は、循環型社会形成推進基本法に代表される循環型社会形成に向けた法整備が行われた循環型社会元年であった。

当学会では、このような社会情勢の中で3月に設立10周年を迎え、記念行事を含む様々な行事が開催された。活動状況は下記の表のとおりで、主な内容は次のとおりである。

平成12年1月から12月までの活動状況

月　日	活　動　内　容
1月20日	東海･北陸地区連絡会設立準備会 (名古屋市：名古屋大学)
4月7日	平成12年度廃棄物学会セミナー (港区：メルパルク東京)
4月15日	設立10周年記念公開市民フォーラム (大阪市：住まい情報センター)
5月23日	平成12年度総会及び 平成11年度廃棄物学会賞表彰式 (川崎市：産業振興会館)
5月23日 ～24日	平成12年度春の研究シンポジウム (川崎市：産業振興会館)
9月30日	中国・四国地区連絡会設立総会 (岡山市：岡山大学)
10月11日 ～13日	APLAS　Fukuoka　2000 (福岡市：健康づくりセンター)
11月8日 ～11日	第11回研究発表会 (北海道：北海道大学他)
11月10日	北海道支部(仮称)シンポジウム (北海道：北海道大学)
11月29日	平成12年度シンポジウム (千葉市：日本コンベンションセンター)
12月5日	関西地区連絡会技術セミナー (神戸市：株式会社環境保全センター他)

◆関西、九州、北海道地区に続く4番目の地区活動組織として、東海・北陸地区連絡会の設立準備会が開催された。該当地区は、愛知、静岡、岐阜、三重、福井、石川、富山、新潟、長野県とし、事務局は名古屋大学難処理人工物研究センター内に置かれることとなった。

◆廃棄物学会セミナーは、「焼却灰の適正処理と有効利用における安全性」をテーマに企画委員会により開催された。メウ博士による「廃棄物の処理と有効利用のための溶出試験に関する欧州標準化の現状と将来」と題する講演が行われたのをはじめ、田中勝氏(岡山大学)、水谷聡氏(京都大学)、貴田晶子氏(広島県保健環境センター)の講演、パネルディスカッションが行われた。最後に今後学会として取り組むべき課題が提起された。

◆10周年記念公開市民フォーラムは、編集委員会・関西地区連絡会により開催された。作家・石川英輔氏、G.ゴールドシュミッド博士、高月氏（京都大学）の講演が行われ、200名を超える熱心な参加者で会場は大盛況であった。

◆総会は、正会員81名の参加を得て開催された。寄本勝美会長の挨拶ののち議事に入り、11年度事業報告・収支決算・監査結果報告、12年度事業計画・収支予算が審議され承認された。また、第6期役員の選挙結果が報告され理事16名、監事2名が選任された。さらに新理事会から4名の理事候補が推薦され、承認された。続いて、理事の互選により会長に田中勝氏、副会長に高月紘氏、田中信壽氏、鍋島滋郎氏が選任された。田中勝新会長が挨拶に立たれ、学会活動への協力に謝意を表されるとともに抱負を語られた。引き続き平成11年度廃棄物学会賞の表彰式が行われ、大賞1名、論文賞4名(2件)、著作賞1名、奨励賞1名が表彰された。

◆春の研究シンポジウムは、総会時に合わせた企画として、年会委員会と研究委員会により初めて開催されたものである。約330名の参加のもと、2会場に分けて計6テーマが行われた。

◆中国・四国地区連絡会設立総会が開催され、12年度事業計画、予算案並びに田中勝氏(代表)をはじめ15名の役員が承認され、5番目の地区活動組織となった。また、合わせて「焼却灰の有効利用とセメント事業」をテーマに第1回セミナーが開催され、講演が行われた。

◆アジア太平洋廃棄物理立会議が福岡市で開催された。会議には海外13ヶ国、国内を合わせて219名の参加があった。ラファエロ・コス氏、全浩氏、花嶋正孝氏により基調講演が行われ、また、5テーマ32編の口頭発表、意見交換が行われた。クロージングセレモニーでは会議アピールが採択されるとともに、今後も継続的に開催することが確認された。

◆第11回研究発表会が、北海道大学を主会場に札幌市で盛大に開催された。例年より遅めの11月の開催で、初日の朝は一面雪景色であった。参加者は1,429名、発表数はこれまでの記録を50件近く更新する437件であった。口頭発表者の中から16名が優秀プレゼンテーション賞に、ポスター発表の中から8編が優秀ポスター賞に選ばれた。また、循環関連法に関するシンポジウム、廃品アート展、小集会、見学会が開催された。

◆北海道支部(仮称)シンポジウムが「循環型社会における広域化と地方自治の問題」をテーマに160名の参加で開催された。小笠原紘一氏(北海道)ら3名が講演された後、「広域化」の問題について参加者と総合討論が行われた。

◆シンポジウムは「循環型社会への道程を探る」をテーマに企画委員会により開催された。小林康彦氏(財団法人日本環境衛生センター)による「循環型社会形成推進基本法をめぐる論点」の基調講演、続いて3名の講演後総合討論が行われた。

◆関西地区連絡会技術セミナー・見学会が「建設廃棄物のリサイクル―新たなる資源の創造―」と題して開催された。建設廃棄物等再資源化プラントを見学した後、講演会が開催された。　　(事務局会議　大塚　康治　記)

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■ 企画委員会 □■□■

平成12年度市民・学生のための廃棄物セミナー *2001年2月5日*

「こうしよう！　生ごみ処理」開催報告

「こうしよう！生ごみ処理」と題して、2月5日に品川区立総合区民会館きゅりあん小ホールで約50名の参加を得て行なわれた。市民のほか環境について学ぶ学生の姿もみられた。

「一般廃棄物としての生ごみの量は、全国で年間2000万トンにものぼる。一方、産業廃棄物としての有機性廃棄物もまた大量に発生している。焼却一辺倒からの脱却という社会的な流れあるいは資源リサイクルを考えるとき、これらは今後の廃棄物対策において重要な意味をもつと考えられ、身近な廃棄物であるだけに市民とともに考えたい。」これが、今回の企画趣旨であった。

まず、静岡大学松田智氏が「家庭用生ゴミ処理機の基礎知識」と題して、電動型処理機の中でもとくに微生物分解を応用した機器の原理と特徴、そして装置としての評価のしかたなどについてわかりやすくお話いただいた。次に、国土交通省建築研究所の山海敏弘氏に「ディスポーザーによる生ごみの処理」と題して、国の研究プロジェクトの経過についてお話いただいた。ディスポーザーについては様々な意見があるが、この場では氏個人の率直な見解が述べられたり、会場からの質問も出て、時間は十分でなかったが貴重な場になった。

午後の1,2題めに順序の入れ替えがあり、まず株式会社ダイナックス都市環境研究所佐久間信一氏から、「生ごみ処理機を用いた事業系生ごみ処理からリサイクルへ」と題して学校やコンビニエンスストアで始められた生ごみ・食品廃棄物を微生物分解方式の処理機で減量しリサイクルする試みについて紹介された。

農林水産省畜産試験場代永道裕氏からは、「生ごみと家畜排泄物との混合堆肥化について」と題して、大量に発生する家畜糞尿を生ごみと混合して堆肥化することの意義と事例が述べられた。

最後に、環境省国立環境研究所大迫政浩氏によって、「生ごみ・有機性廃棄物の処理とリサイクル-評価と今後」と題して、家庭用の電動生ごみ処理機などの新しい流れを含めてライフサイクルアセスメントの考え方を適用した評価の必要性といくつかの計算結果をわかりやすくお話いただき、生ごみと有機性廃棄物を総合した今後の廃棄物処理のあり方について、締めくくっていただいた。

充実した内容のセミナーであっただけに、開催の広報期間が短く、参加者がやや少なかったことが残念であった。今後の企画にフィードバックしたい。

（企画委員会　川本　克也　記）

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■ 中国・四国地区連絡会 □■□■

第２回中国・四国地区連絡会セミナー *2001年1月24日*

「環境を考える」講演会開催報告

廃棄物学会中国・四国地区連絡会第2回セミナー「環境を考える」講演会が1月24日、岡山カルチャーホテル4F孔雀の間にて、社団法人地盤工学会中国支部との共催により開催された。

今回のセミナーでは、中国・四国地区連絡会から田中勝氏（岡山大学）による「21世紀の環境問題～廃棄物問題の解決策～」の講演があり、地盤工学会中国支部から青山功氏（株式会社大本組）による「地盤工学とISO14000」と田尻宣夫氏（復建調査設計株式会社）による「ISO14000と建設コンサルタント」の講演が行われた。

当日は、好天にも恵まれ、また、地元の放送局や新聞社によりＰＲされたことや、環境問題に対する関心の高まりから、予定人数を大幅に上回る90人以上の参加者があり、一部、立見者が生じる程の盛況ぶりであった。

田中氏の講演は、有害物質の排出状況・規制状況と廃棄物問題との関連、さらには将来への展開と解決策についての解説があり、環境への負荷を低減するために社会コストを考慮したリサイクル推進の重要性についての提言が印象深かった。

中国四国地区を中心に、産官学から一般市民も加えた非常に幅広い分野からの参加者があり、講演後に持たれた質疑応答も予定時間を超過する程ご活発に行われた。

今回のセミナーを通じて、改めて、環境（廃棄物）問題に関する関心の高まりを認識するところであった。

（中国・四国地区連絡会　宗村　邦嗣　記）

関西地区連絡会主催市民と学生のためのセミナー　2001年3月24日

「めぐりめぐるごみと欲望～環境と循環」開催のご案内

大量生産、大量消費、大量廃棄のアメリカ型欲望社会をめざしたバブルが崩壊して10年余、今、日本は次世代に豊かな地球環境を残すべく、循環型社会の構築に向けて21世紀を一歩踏みだそうとしています。このような中で、私達自身の便利で快適な生活から生み出されるごみの処理について、市民が主役となって行政や企業任せでない、ごみ社会にNOという責任ある行動が一層強く求められています。

そこで、関西地区連絡会では、私達の欲望から生み出されるごみを、市民生活の原点に立ち戻り、循環をキーワードに生活、企業、社会のあり方を見つめ直し考えていくセミナーを開催します。

市民や学生の皆さんの積極的なご参加をお願いします。

開催日時：平成13年3月24日(土)13:00-16:30(12：30開場)
開催場所：(株)河野総合経営システム『天満研修センター』
2階205ホール（大阪府大阪市北区錦2-21）
JR大阪環状線天満駅下車1分、地下鉄堺筋線扇町駅下車6分
参加費：資料代　500円（当日受付）
定員：150人(先着順)

【　ご案内　】

○京都大学廃棄物経済部研究会主催　廃棄物学会後援
シンポジウム　循環型社会と自治体経営
開催日：平成13年3月23日（金）　10：00～17：00
場　所：キャンパスプラザ京都4F第3講義室（京都市下京区）
参加費：無料
問合せ：京都大学経済学部植田研究室
Tel.075-753-7531（内3475）

○（社）土壌環境センター主催　廃棄物学会協賛
春季セミナー「土壌・地下水汚染と諸問題2001」
開催日：平成13年4月20日（金）　13：00～17：00
場　所：シェーンバッハ・サボー（砂防会館別館）（京都市下京区）
参加費：5,000円
問合せ：（社）土壌環境センター事務局　吉田、保賀
Tel.03-3452-2593

会員状況	H13.2.28現在 （　）内は、H12.12.1以降の増減
正会員	3,542（ 28）
学生会員	271（ 8）
外国人会員（DM）	21（ 0）
公益会員	114（ 1）
賛助会員	209（ 2）
計	4,157（ 39）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第４条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュースNo.61　　平成13年3月1日発行
廃棄物学会　〒108-0014東京都港区芝5-1-9豊前屋ビル5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jswme/index.html
古紙配合率100%再生紙を使用しています

プログラム：
「市民が主役の32分別～ごみニュケーションは町づくり」
杉浦　邦俊さん（愛知県碧南市）
「ごみを家庭から出さない工夫～気楽に身近にエコロジー」
赤星　たみこさん（漫画家）
「ごみゼロ循環型社会をめざして～ごみが日本を滅ぼさないために」
安田　八十五さん（環境政策学者）

申込方法：①住所②氏名③連絡先の電話番号を明記の上、**3月23日(金)**までにFAX若しくはE-mailでお申し込み下さい。（FAX、E-mailの到着で受付に代えます。返信は致しません。）
申込先：廃棄物学会関西地区連絡会事務局（担当：片桐、高田）
〒530-0041　大阪市北区天神橋3-6-26
扇町パークビル5F　（財）廃棄物研究財団気付
TEL；06-6354-5028　FAX；06-6354-5029
E-mail；katagiri@jwrf.or.jp

【　会費納入のお願い　】

平成13年度会費につきましては、3月末に送付いたします郵便局の払込取扱票にて**平成13年5月末日**までにご納入下さいますようお願いいたします。

本年8月には会員名簿第6号の発行を予定しております。会員名簿に自宅情報（自宅住所、自宅電話番号）の掲載を希望されない方は、会費納入の払込取扱票の通信欄にてご連絡下さい。なお、上記期限を過ぎてからのご連絡に関しましては、ご希望に添えない場合がありますのでご了承下さい。
また、やむを得ず年度末にて退会をされる方は、退会届（書式自由）のご提出をお願いいたします。

☆　事務局だより　☆

徐々に寒さもゆるみ確実に春が近づいております。いよいよ花粉症の季節到来で、本来ならば心弾む春であるはずなのにぞっとされる方が多いのでは…？早めの予防で乗り切りましょう。　このたび諸般の事情により、本年度末をもって退職することになりました。事務局職員となって6年8ヶ月の間、会員皆様にご指導いただきながら、泣いたり笑ったり、がむしゃらではございましたが、何とか務めて参ることができました。ありがとうございました。いたらない点が多く、かゆい所に手が届くような仕事ができず、皆様に歯痒い思いをさせてしまったのでは、と深く反省いたしております。そして、環境問題、廃棄物問題が重要視されている昨今、廃棄物学会の急発展期に職員として働くことができたことを光栄に存じております。今後、より多くの人々に廃棄物学会の存在を知ってもらい、廃棄物問題に大きな関心を示していただけるようになることを願うとともに、学会の益々のご発展をお祈り申し上げます。　（事務局　石川　八重　記）